

目 次

I. 社会福祉法人上越老人福祉協会法人上期事業実施状況活動報告	1
II. いなほ園関係事業活動報告	3
III. 新光園関係事業活動報告	5
IV. 高田の郷関係事業活動報告	7
V. 千寿園事業活動報告	9
VI. ケアハウス上越事業活動報告	11
VII. 各事業種別における活動報告（各種委託事業）	13
地域包括支援センター	
認知症相談センター	
認知症研修事業	

I. 社会福祉法人上越老人福祉協会法人事業実施状況報告

1. 法人事業整備計画

(1) 高品質サービス提供のための評価システムの活用

特別養護老人ホームいなほ園が、福祉サービス第三者評価を受審し、評価結果を次年度事業計画に反映させることができた。法人事業利用者を対象として満足度調査を実施、サービスの質を点検し、改善につなげた。

(2) グループホームの新設

上越市第4期介護保険事業計画地域密着型サービス整備事業者に応募、6事業者の中から事業者に決定する。23年3月、建設予定地の土地を取得、23年度建設に向けて関係機関との協議等準備を進めた。

(3) 千寿園の大規模修繕

上越市発注の工事により、スプリンクラー及びエレベーターが設置整備された。千寿園利用者の安心安全な生活確保と住環境の充実が図られた。

2 法人組織整備計画

(1) 法人事業組織の整備

法人本部の機能強化を図り、法人経営の核となる組織再編を目標に1年間協議を進めた。

概要としては、現行の四事業部会を財務管理部会、組織管理部会、事業・情報管理部会の三部会に再編し、管理者が責任をもって各部会を組織するとともに、専門委員会は最低限必要な設置数とした。3管理部会を取りまとめる経営管理の中心として常任理事会を設置し、経営課題を協議・方向付けし、理事長へ報告協議する組織とした。決定事項は、施設長・事務長会議で確認する。

また、事業所部会は廃止し、機能は他の組織へ引き継ぐこととした。

(2) 人材育成・確保システムの整備

ステップアップ研修（初任者研修、中堅職員研修、指導・監督職員研修）、スキルアップ研修（認知症、感染症、リスクマネジメント、利用者満足度向上、メンタルヘルス、制度）を法人内研修として計画実施した。外部研修は、各事業所ごとに計画的に参加させ、人材育成に取り組んだ。

(3) 労働環境の整備

育児休業法の改正に基づく規則の一部改正による育児環境の改善、メンタルヘルス講演会、セクシャルハラスメント防止の喚起等職場環境の改善を図った。

(4) 人事考課制度の効果的实施

平成22年4月より、一部改正された人事考課制度により人事考課を実施した。行動考課評価項目の内容を具体的に示し、わかりやすい内容とした。評価の精度を高め、公平な評価に期するため、今年度より考課者による評価会議を年2回開催した。

3 法人資金整備計画

(1) 法人事業経営の安定化と資産の適正管理

毎月本部事務局会議において、月次決算を行って予算対比による経営状況を把握するとともに原因分析をして収入の確保、経費削減等経営改善に努めた。

(2) 法人施設・事業所取引備品材料等に関わる取引管理計画

法人施設事業所の共通備品は、共同購入によりスケールメリットを利かせた経費削減とともに合理的な取引を実施した。

(3) 法人事業におけるコンプライアンスシステムの活用

法人監査委員による、会計及び事業の内部監査を実施した。また、2年ごとの社会福祉法人指導監査が実施され、指摘事項の改善を図った。

(4) 効果・効率的な事業運営

入所準備期間の短縮、ショートステイの効率的な利用等による目標利用率の管理により、収入の確保を図った。

4 法人情報整備計画

(1) 法人及び各事業所の情報管理システムの整備

ホームページのリニューアルは、和・道グループとの連携により準備を進めた。求人ページを新たに追加し、また、定期的な更新を実施した。

Ⅱ. いなほ園関係事業活動報告

(特養、在宅サービス、ケアハウス、グループホーム)

(1) 高品質なサービスの提供

- ・特養いなほ園は、計画通り10月に(社)新潟県介護福祉士会による第三者評価を受審し、3月7日新潟県より承認される。評価結果は全体として高評価であり、更に質を高めるためのポイントが具体的になったので23年度から順次改善に取り組む。
- ・特養認知症対応フロアでは重度化する利用者に対して、安全な生活環境を整えるため畳部屋をフローリングにする改修工事をおこなった。
- ・ケアハウスでは防災体制の再編・強化を目標に、独自の災害マニュアルを作成するとともに夜間想定訓練等2回の避難訓練を実施し、その有効性の確認と利用者に対する意識付けをおこなった。
- ・グループホームでは定期的に運営推進会議を開催し地域住民や利用者家族等の助言を取り入れた、サービスの見直しと防災体制の充実に取り組んだ。

(2) 安定的な事業運営

- ・利用率は特養(97.4%)、短期(99.9%)、通所(一般型90.0%)、GH(なかよし98.0%：宝寿98.5%)と高率をマークした。日頃からの利用率分析と取組、関係機関との情報共有が良い結果に結びついた。
- ・利用率の安定に伴い、介護保険収入は前年もしくはそれ以上となる。支出については事業費(特に油代)が前年比で増額となる。それでも各事業所もしくは職員個々による節約の効果から事務費の削減が随所に見られた。

(3) 人材育成と人材確保への取組み

- ・人事考課における上司との面接を通じて、個々の課題や目標の他、業務上の悩みやチームワークなどについて共有することにより、職務に対する動機づけする役割を果たした。
- ・新任職員に指導担当を付け、定期的な面談をおこなった。面談では日頃の業務評価だけでなく個々の目標設定を経て、継続した指導をおこなった。

(4) 介護保険制度サービスの検証

- ・居宅介護支援事業所では、体制整備により特定事業所加算の算定が可能となる。(9月から人事異動に伴い取下げ)整備段階で業務システムやスキルアップ方法について見直しをおこない、事業所全体の質向上につながった。
- ・デイサービスの機能訓練については担当者とは他職員の連携が取れず、効果的なサービス提供に繋がらなかった。

Ⅲ. 新光園関係事業活動報告（特養、在宅サービス）

（1）透明性の高い安定的かつ継続的な事業経営

- ・収入面では、デイサービスで延べ利用者数 が1割増え（前年度に比べ820人増）収入が前年度比6,170千円増となった。また居宅介護支援事業所でも給付管理数の増加と特定事業所加算により3,370千円収入が伸び、新光園全体では前年度比12,000千円の収入増となった。
- ・支出面では、水道光熱費が経年劣化による配管損傷（複数箇所）にて漏水、また猛暑影響により前年度比3,300千円増。人件費においては定期昇給・臨職から正職への移行・欠員補充により全体に費用増加となったが、職員の超過勤務が減少し時間外手当は前年度比1,030千円減少した。

（2）職員育成と組織機能強化

- ・人事考課による職員育成に加え、臨時介護職員に対して業務の振り返りと目標設定を具体化し個々のステップアップに取り組んだ。また新採用職員にエルダー制（新採用者個々に経験職員を担当させ共に定期的振り返りを行った）を導入し精神的フォローも含め継続的な育成に力を入れた。
- ・職員個々の役割・責任を組織機能の中で高めるという点では意識的な取り組みが弱かった。職員が組織の一員として成長していけるよう、次年度も目標として掲げ取り組みを強化したい。

（3）標準化されたサービス管理と高品質サービスの追求

- ・ケアの振り返りに重点を置き、特に看取りケアにおいては「偲びのカンファレンス」を実施した。その中で日常の延長線上にあるターミナル期について意識化を図った。大切な時期を逸することのないケアを実施していけるよう、多職種協働で時期や状態に応じた基本ケアを体系化することを次年度目標として置いた。
- ・リスクに関してはマネジメントシート活用により事故予防への取り組みを続けてきたが、事故発生後の対策検討の傾向強くヒヤリハット報告からのマネジメントや危険予測の強化という点では課題を残している。

（4）福祉施設機能の地域発信、地域・ケアハウス上越との防災協力体制強化

- ・今年度、施設広報を職員手作りによる年4回発行とし、タイムリーな新光園情報の発信に努めることが出来た。
- ・また、防災面では、災害時の設備トラブルの対応や火災・地震・水害マニュアルについて見直しを行い、設備の操作説明では写真等を加えより分かり易いものへと整理した。今後も緊急時に迅速かつ的確な行動がとれる様、さまざまな状況設定をしながら訓練を実施し安全への意識を高めたい。

IV. 高田の郷関係事業活動報告

(老健、在宅サービス、グループホーム、小規模多機能型)

- (1) 利用する方の「個性」と「選択」に責任を持とう
 - ・ケアプラン会議への利用者参加が定着し生活選択の機会が増えた。余暇活動には、これまでのメニューに加え、馴染みの作業を取り入れ生活意欲を引き出すことができた。
 - ・苦情をきっかけに「福祉施設職員としての接遇」について取り上げ、全体研修及び職域単位で意識改善に取り組んだ。
 - ・サービス改善計画を進めながら、自己評価及び満足度調査を実施しサービス改善、向上に取り組んだ。

- (2) 認知症ケアの専門性を高め自立支援に取り組もう
 - ・ケアの基本を確認するため、認知症研修指導者が主体となって職域で認知症学習会を開催した。
 - ・作業や脳トレーニングだけでなく、運動療法と組み合わせながらより効果的な提供に取り組んだ。

- (3) ニーズに応じた多様なリハビリテーションを提供しよう。
 - ・個別ニーズを考慮し、可能な限り個別及び集団リハの回数を増やし生活能力の維持を図った。
 - ・在宅訪問を数件実施する中で、生活様式に応じた福祉機器や住宅改修の助言や情報提供を行った。

- (4) 施設機能を活かした「安心できる生活支援」を提供しよう。
 - ・在宅復帰に伴い、退所前に家人や関係機関へ必要な情報提供、確認の場を持ち生活が途切れないよう安心できる生活支援に取り組んだ。
 - ・在宅復帰後の生活継続に高田の郷の機能（短期入所、通所、在宅支援計画）を活かした提案、連携を図り施設全体で支えることができた。

- (5) 地域貢献を目指し、経営の安定に取り組もう。
 - ・アンケートからテーマを定め「地域公開講座」を2回開催した。地域住民から好評が得られ、職員の地域貢献の意識向上にもつながった。
 - ・初めて防災避難訓練に住民参加が実現できた。地域総合防災訓練には、福祉施設として参加し相互の防災意識、連携が高まった。
 - ・経営面では、入所、通所が目標利用率に及ばなかったが、その他事業が堅調で予算収入以上を確保できた。支出は適正配置による人件費、修繕費の減少などにより抑制できた。結果として収支差額が予算以上を確保できた。

V. 千寿園事業報告

(1) 安定的な利用率の確保

- ・利用率の目標は96%（48人）であったが、結果として年平均93.7%（46.9人）で目標に達することができなかった。

(2) 各種行事の実施状況

- ・毎月行事計画表を作成し、それに基づき各種行事を計画し実施した。
- ・民謡、書道、手芸、コーラス、ボーリング、カラオケ、お達者等のクラブ活動も計画どおりに実施した。

(3) 要介護認定者への介護サービス提供状況

- ・要介護認定者が19名と利用者全体の44%を占めている。それぞれの担当ケアマネージャーと連携し、適切な介護保険サービスを受けられるように連携し、千寿園での生活が継続できるように配慮した。

(4) 利用者のニーズの合った食事提供

- ・利用者との食事サービス懇談会や嗜好調査を行い、利用者の希望を聞き、利用者の嗜好や状況に合った食事提供に努めた。

(5) 利用者の健康管理状況

- ・年2回健康診断を行い、利用者の健康管理に努めた。病気の予防や早期発見に努め、病院受診や入院等適切に対応した。
- ・インフルエンザの予防接種を行い、罹患者はでなかった。
- ・本年1月に、ノロウィルスが発生し7名の方が発症したが、重篤な状態にはならず、園内での静養で対応した。

(6) 千寿園の改修について

- ・本年3月までに大規模改修でエレベーター及びスプリンクラーの設置が完了した。

VI. ケアハウス上越事業活動報告

(1) 生活の継続支援

状態変化のみられた方へは関係者との連絡調整、サービス導入など適切に対応できた。ほのぼのシステム導入によりまめに記録する体制を整え情報共有を図ることができた。

(2) 安定的な利用率の確保

待機者の安定確保が出来ていたため、退居者発生後の迅速な入居利用に繋げることができ年間平均99.7%の利用率を維持に繋がった。

(3) 利用者の心身状況・ニーズに沿った設備管理

会議や日常で要望にあった修繕には意図的・計画的に対応した。猛暑対策では空調機器の斡旋を行い過ごしやすい居室環境作りに配慮した。

(4) 職員育成

千寿園との軽費部会で精神障害についての研修を開催した。また困難ケースについては和道の専門機関に随時問い合わせ対策を講じた。

(5) 地域との交流

15周年記念行事に町内会長、長生会会長を招いて利用者との交流を図った。行事をきっかけに長生会に加入された方があり良好な関係を維持している。ケアハウス施設内研修として口腔ケア研修を開催し町内から10名の参加をいただいた。

VII. 各種委託事業報告

(1) 地域包括支援センター（高田の郷、新光園）

①認知症連携担当者の活動について（高田の郷）

市内 20 か所の地域包括から認知症に関する相談が多く寄せられた。相談件数は 436 件であり、昨年度実績（※199 件）の 2 倍を超えた。認知症連携担当者の存在が周知されてきた結果と考えられる。認知症の受診や治療に関する相談が多く、専門性の高い相談については認知症疾患医療センターの協力を得て支援を行ってきた。啓発活動では、各地域包括支援センターが主催するネットワーク会議などにて認知症の人を地域で支える重要性などを伝えてきた。

（表 1）平成 22 年度認知症連携活動実績（※は平成 21 年度実績）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数 (延べ件数)	31	19	31	39	42	24	40	35	35	39	47	54	436 (※ 199)
啓発活動 (回)	0	0	2	3	1	2	1	3	3	1	1	2	19

②総合相談、実態把握業務について（高田の郷・新光園）

本人・家族からまた関係機関等を通じて、介護やその他生活相談への対応をした。また市が提供する一人暮らし及び高齢者世帯名簿をもとに、民生委員等と情報交換しながら、電話や訪問にて高齢者一人一人の生活の実情把握に努め、健康状態や介護、権利擁護等の生活に対する不安や様々な問題などを把握し、必要なサービスの提供と介護予防の啓発などに努めた。7月、1月は強化月間とし特に積極的に実態把握を行い、認知症の人の発見等成果があった。

	介護保険や介護方法、悩み	医療、健康関係	生活、経済、法律等	介護保険外福祉サービス	権利擁護	実態把握
件数(月平均)	609	236	179	102	11	126

③地域の支援ネットワークづくり（高田の郷・新光園）

地域の民生委員、介護支援専門員、地域包括支援センター等が協力し、地域の高齢者を支えていこうとすることを目的とした会議や研修会を実施した。必要によっては地域での話し合いの場を作り支援してきた。今後も更なる協力体制づくりの必要がある。

地域ネットワーク会議	地域ネットワーク作り支援	認知症サポーター養成講座	介護支援専門員事例研究会
8回	3回	1回	4回

④介護予防事業について（高田の郷・新光園）

予防給付の対象者へのケアマネジメントを行い、二次予防対象者には状況の聞き取りや介護予防の啓発などを行い、必要な方にのびやか広場等の新規参加を勧めた。二次予防施策が少ないこともあり、健診後の二次予防対象者のフォローが十分にできなかった。

健診後フォローアップ	二次予防支援事業参加者	予防給付数
271人(年)	53人(月平均)	285人(月平均)

(2) 上越地域認知症相談センター

- ①啓発活動は、12回(416名)、相談22件(内面談11件)であった。認知症連携担当者が設置されたり、認知症キャラバンメイト等の活躍により講演依頼は前年より減少している。
- ②相談については、重症化されてからのものが多く地域からの偏見などから家族の悩みも大きく、身近な相談窓口が重要と痛切に感じた。
- ③若年性認知症の取り組みは、難しい課題が山積しているが対象者の増加と深刻化が増しており、早急な対策が必要であり当センターとしても何が出来るか模索中である。

(3) 認知症介護実務者研修

①事業実施状況

【新潟県委託分】

研修名	研修日時	受講人数
認知症介護実践者研修(1回目)	7月7日、8日、9日、14日、15日、報告会8月31日 及び現場実習4週間	53名
認知症介護実践者研修(2回目)	10月13日、14日、15日、18日、19日 報告会11月30日 現場実習4週間	53名
認知症対応型サービス事業管理者研修	12月2日、3日	34名
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	12月16日、17日	31名

【新潟市】

研修名	研修日時	受講人数
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	12月16日、17日	11名

②事業委託費

【新潟県】 4,480,000円

【新潟市】 440,000円

(資料)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	98.7	97.4	97.5	97.4	97.4	97.2	98.8	96.3	96.1	96.4	97.9	98.1	97.4	96.5
新光園	93.6	98.7	93.2	95.4	99.6	98.7	98.1	96.2	96.6	96.5	96.1	94.3	96.4	96.0
高田の郷	95.4	96.4	92.0	90.8	90.8	93.3	91.8	92.6	92.6	94.9	96.0	93.8	93.4	95.0

②在宅系(ショートステイ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	100.5	98.4	95.7	95.3	97.9	100.0	98.4	105.0	103.7	101.3	103.8	98.9	99.9	99.0
新光園	88.8	83.6	85.3	86.0	77.9	80.5	85.0	77.5	85.2	89.7	94.1	87.4	85.1	90.0

③在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	86.7	83.4	91.0	92.5	88.7	92.5	93.7	91.5	92.4	85.3	90.1	91.6	90.0	87.0
(認知型)	22.0	25.0	32.7	41.6	45.1	41.3	39	39.6	42.5	39.3	38.2	41.9	37.4	32.0
新光園	79.8	82.4	83.3	86.6	83.3	84.3	83.1	86.3	89.3	85.8	88.9	85.9	84.9	82.0
高田の郷	73.4	74.5	78.3	80.0	72.2	77.0	74.0	75.8	72.0	63.1	70.4	73.0	73.6	75.0

④軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	96.0	98.0	96.0	94.0	94.0	96.0	94.0	94.0	90.0	92.0	90.0	90.0	93.7	96.0
ケア上越	100	99.5	100	99.2	100	100	100	100	100	100	100	98.2	99.7	97.0
みのりの家	100	100	100	100	100	100	100	100	96.3	100	100	100	99.7	100

⑤グループホーム、小規模多機能型居宅

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	100	100	100	100	100	94.4	100.0	100.0	97.8	100.0	100.0	96.4	99.1	100
なかよし寿	93.3	96.2	100	100	100	97.8	93.4	97.2	99.5	98.4	100	100	98.0	99.0
宝寿	100	98.9	100	100	100	100	100	96.6	98.9	100	92.0	96.0	98.5	99.0
らく寿	100	90.0	90.0	100	100	95.0	100.0	95.0	95.0	100.0	95.0	90.0	95.8	100

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	91	90	94	91	89	68	62	67	67	63	60	62	75	70
新光園	75	83	80	77	71	85	86	86	82	81	86	86	82	90
高田の郷	71	72	71	73	68	69	69	70	68	73	74	74	71	70

※いなほ園は9月から3⇒2名体制に変更

【要介護状況】

事業所	要支援1.2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均
いなほ園	2	17	56	36	3.9		
新光園	3	5	18	18	3.7		
高田の郷	5	16	29	27	3.3		
いなほss	1	5	25	18	3.2		
新光園ss	1	6	15	10	3.3		
いなほDS	14	10	20	13	2.8		
新光園DS	19	24	23	15	2.1		
通所リハビリ	30	15	18	12	2.6		
千寿園	5	5	9	5			
CH上越	11	4	4	1			
みのりの家	5	3					
敬寿	0	2	2	4	1	0	2.4
なかよし寿	0	3	3	7	4	0	2.8
宝寿	0	2	4	3	0	0	2.1
らく寿	3	6	8	1	1	1	1.7

3月末日現在

【リスク管理】

①事故発生状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	いなほSS	新光園SS	いなほDS	新光園DS	高田の郷D	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	らく寿
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院	3	1	5	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
受診	14	4	12	4	0	1	0	2	0	1	2	4	0	0	2

②苦情受け付け状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	いなほSS	新光園SS	いなほDS	新光園DS	高田の郷D	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	らく寿
ケア内容	5	0	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
職員対応	2	0	4	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
利用料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

【職員採用状況】

	正職員	臨時職員
退職者	19	34
採用者	6	47

【職員有資格状況】

資格名	人数
社会福祉士	19
介護福祉士	133
介護支援専門員	62